

南砺絵解きフォーラム2024

能登震災復興支援事業

砺波平野から五箇山への入口にあたる、井波別院瑞泉寺と城端別院善徳寺は、越中の歴史文化を代表する古刹であり、それぞれ個性的な町を象徴する伽藍を誇ります。その両別院を象徴するのが、夏の太子伝会と虫干法会です。そこで営まれる聖徳太子と蓮如上人の御絵解きは、共に行事の中心ですが、日本仏教の元祖なる太子と、真宗中興の祖師なる蓮如上人の生涯を、絵伝を前に物語る「絵解き」は、仏教の伝来と共に受け継がれてきた布教と娯楽の芸能として、今に生きる貴重な絵ものがたり文化遺産なのです。

このたび、両別院が共同で開催する「南砺絵解きフォーラム」は、その法会行事の期間中に、両別院の伝統ある絵解きを互いにコラボレーションします。更にゲストとして、太子伝絵解きのルーツ、大阪四天王寺から聖徳太子絵堂の絵解きを担う担当の役僧、現代社会に仏法布教の絵解きを復活させる活動を繰り広げる三河すーぱー絵解き座の座長と座員に絵解き公演を、そして砺波の真宗文化の中での絵解き伝統の意義について、太田浩史さんに講演をお願いしました。

このフォーラムを通じて、南砺の皆さんに、絵解きという伝統メディア文化の面白さ、奥深いその魅力を共に感じ取って戴ければ幸いです。



26日

城端別院虫干法会絵解きフォーラム

蓮如上人絵解き

宗祖親鸞聖人の伝絵が報恩講の「御伝鈔」拜読で読まれるのに対して、蓮如上人の御絵伝は各地で自由に絵解きされ、近世から近代にかけて多様な作例が伝わります。蓮如伝は広く説教に用いられ、それが絵解きされました。蓮如開基と伝える城端別院では、五月の御忌と七月の虫干法会に、昭和初期の二幅の御絵伝を用いて、先代西尾常信師の説かれた絵解き台本に拠って、馬川透流師が絵解きを勤めており、最近では若手僧侶に引き継がれています。上人の、度重なる迫害を乗り越えて布教する生涯は、絵解きでは身代わりとなって化導を助ける女人・百姓・弟子さらには犬までが登場する涙を誘う物語として絵解かれます。

井波別院太子伝会絵解きフォーラム

聖徳太子絵解き説法

親鸞聖人が深く崇敬された日本仏教の祖、聖徳太子の伝記を絵伝によって説くことは、奈良時代に四天王寺の絵堂絵解きから始まり、浄土真宗もその伝統を受け継ぎます。井波別院瑞泉寺は、本願寺五代綽如上人が、後小松天皇から賜った南無仏太子像と金岡筆太子絵伝八幅（重要美術品）を携えて開き、江戸時代に絵解き説法を始めて、七月の太子伝会では九日間にわたって太子の御一生が説き尽くされます。かつて其の台本は役僧毎に秘伝として伝わりましたが、古代史の焦点となる太子の生涯は、今も興味尽きない豊かな物語の宝庫です。



27日

出演者

立島秀哲 たつしま ひであき

小矢部市 真宗大谷派称名寺副住職
能登の節談説教を継承し、馬川師の呼びかけに応じて節談で蓮如上人御絵伝の絵解きに取り組む。

26日

榑野明仁 なぎの あきひと

愛知県西尾市 真宗大谷派本澄寺住職、
三河すーぱー絵解き座座長
琵琶の弾き語りや親鸞聖人から聖徳太子まで、あらゆる絵解きを語り尽くす「絵解キスト」。
すーぱー絵解き座を率いて全国で活躍する。

26日
27日

杏名奈都子 くつな なつこ

浄土真宗本願寺派布教使、
本願寺視聴覚伝道研究会所属、萬行寺衆徒
真宗の現代の布教教化の現場で絵解きに取り組みながら、すーぱー絵解き座座員として、オールジャンルで活躍する。

27日

堀江邦子 ほりえ くにこ

三河すーぱー絵解き座座員、
絵解きユニット「椿三比丘尼」の庵主様役
応仁年間に立ち寄られた蓮如上人を住職として待ち続ける三河の応仁寺で、蓮如上人御絵伝の絵解きを担う稀有な存在。

26日

河邊啓法 かわべ けいほう

和宗総本山四天王寺、広報部諸堂係、
『四天王寺誌』・絵堂絵解き担当
再興された奈良時代創建以来の伝統をもつ絵堂の太子絵伝（杉本健吉画伯制作）の絵解きを、現代に沿って継承する若手僧侶の一人。

26日
27日

馬川透流 ばがわ とおる

城端別院列座、真宗大谷派真教寺住職
虫干法会の蓮如上人絵解きを継承して30年、お命懸けの生涯を忠実に絵解きしつつ、シンガーソングライターとして「そよ風コンサート」を主催する。

27日

竹部俊恵 たけべ しゅんえ

井波別院五箇寺の一つ、真宗大谷派妙蓮寺住職
瑞泉寺太子伝絵解き説法を継承して半世紀。真宗の伝統をふまえた五段説法による絵解きを、次世代に受け継ぐ為に尽力される。

26日

特別講演講師

太田浩史 おあた ひろし

南砺市 真宗大谷派大福寺住職、
日本民藝協会常任理事、となみ民藝協会会長
真宗・仏教の歴史と文化を幅広い視野で探究しつつ、柳宗悦の「美の法門」が生まれた南砺の「土徳」に根ざした民藝思想と真宗の社会実践を結びつける活動を、砺波・能登への「蓮如上人道中」再興として呼びかける。

26日
27日

コーディネーター／総司会

阿部泰郎 あべ やすろう

龍谷大学世界仏教文化研究センター招聘研究員・
名古屋大学高等研究院客員教授
日本中世の宗教文化を広く調査研究する傍ら、井波別院太子伝会に通い続け、名古屋大学・龍谷大学の学生たちと城端別院虫干法会に聖徳太子絵解きを16年間奉仕した。

26日
27日

